

G 1 部 会 の 研 究

主 題

基礎・基本の確実な定着と応用・発展学習を進めるための指導法の改善

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態から

昨年度のCRT平均点を見ると、G1グループの児童はどの学年も全国平均点を大幅に上回っており、当該学年で習得すべき算数の基礎的・基本的な力が身につけている児童が多いことが分かる。習熟を図る問題では個人間に大きな差は見られないが、既習事項を使った自力解決への取り組みでは、個人差が見られる。また、学び合いの場面では、積極的に自分の考えを発表する児童がいる一方で、ノートにまとめてはいるが発表したらない児童や、自分で解決法を見出すことが苦手の児童も存在する。

そこで、G1グループではしっかりと身につけた既習事項を生かしながら、自ら解決していく楽しさや喜びの経験を数多く積ませ、学ぶ意欲や問題解決の力を一層高めていく必要がある。そのためには、習熟度の高いグループといえども、基礎・基本を確実に定着させ、それを活用していく力をつけていかなければならない。また、自力解決を大切にしたい指導はそれ自体が応用力を高める指導になり、生活の中に生きた力としてつながるはずである。さらに、効果的な発展学習を選択し計画的に取り入れることにより、学習内容を深めたり、数学的な考え方をより高めたりすることができると考えられる。

(2) 学びのタイプから

○学習に取り組む姿勢としては、「むずかしい問題に挑戦すること」や「できる問題をたくさんすること」「はやくどんどん勉強すること」を好む児童が多い。

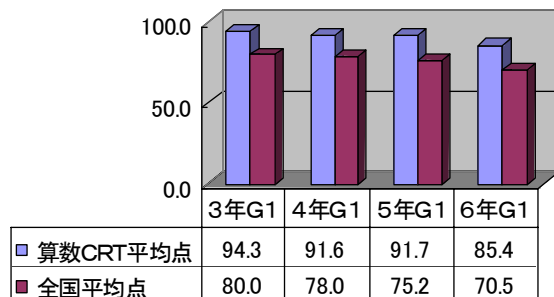
○問題解決にあたっては、「先生や友達に教えてもらうこと」や「一人で静かに勉強すること」を好きと答えた児童より、「自分の力で問題を解くこと」や「友達と考えを出し合うこと」を好きと答えた児童の方が多い。

○発表の場面では、「工夫してノートにまとめること」は7割以上の児童が好きと答えているが、「自分の考えを発表すること」は4割の児童が「きらい」「少しきらい」と答えている。

このような傾向から、このグループは、自主的に学習に取り組む児童が多く、課題に対して適度な負荷をかけながら学習を進めていくことが有効であると考えられる。

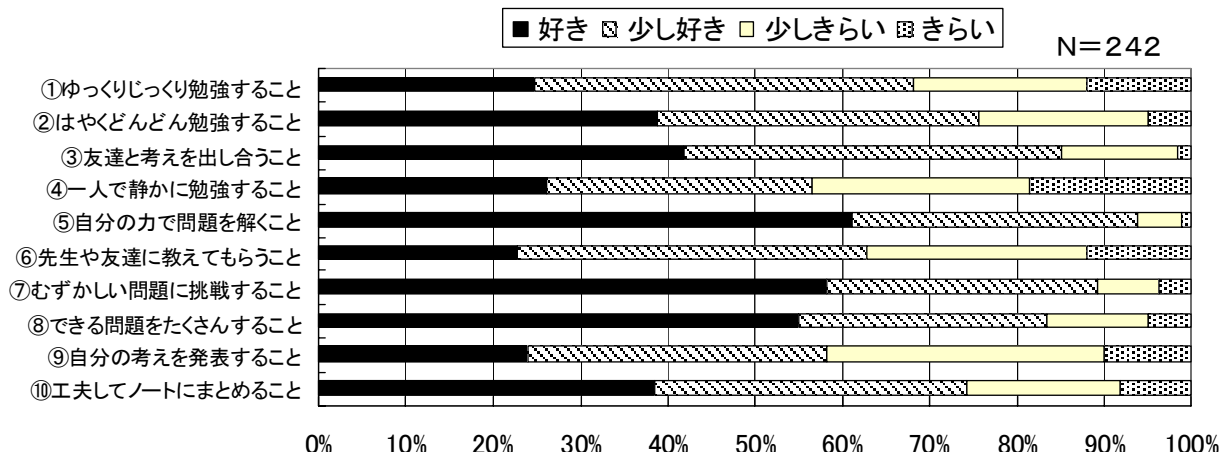
以上のことから、G1部会では、基礎・基本の確実な定着を図り、さらに発展的な学習に取り組ませていきたいと考え、本主題を設定した。

算数CRT平均点(2005年2月)



※CRTの平均点は、各学年とも前学年の2月に実施した結果である。

G1グループ(3～6年) 学びのタイプ調査結果 (2005. 7)



2 育てたい力

関心・意欲・態度	数学的思考
・進んで学習に取り組んだり発展的な問題に挑戦したりすることができる。 ・既習事項を日常生活の課題解決に役立てることができる。	・見通しをもって、論理的に課題解決の方法を考えることができる。 ・多面的な見方ができ、効率的な解決方法を考えることができる。 ・算数のきまりを用いた説明や学習内容を一般化した説明ができる。
表現・処理	知識・理解
・計算、作図、測定、表やグラフ化などの作業が丁寧で正確にできる。 ・速く正確に問題を処理することができる。 ・既習事項を生かして、発展的な問題を解くことができる。	・数量や図形について豊かな感覚をもつことができる。 ・意味や性質を確実に理解できる。 ・新しい学習事項と既習事項を比べたり、関連づけたりできる。

3 主題に迫る手だて

(1) 指導計画の工夫

①グループの実態に応じた指導計画の作成

- ・教科書をベースに基礎・基本の定着を図った上で、学習状況に応じて発展問題に取り組ませる。
 - ・難しい問題に取り組んだり既習事項を生かして問題を解決したりすることで、さらに理解を深め、算数に対する興味・関心を高めていけるようにする。
- *一単位時間内における発展問題 *単元全体に関わる発展問題

②学び直しの時間の設定

- ・学習した内容を確実に理解させるために、学び直しの時間を設定する。
- ・グループ内で、さらに習熟度に応じた発展的・補充的な学習の実施

(2) 指導方法及び指導過程の工夫

①課題提示の工夫

- ・数学的な思考や表現力を高めていくために、児童の思考を活性化させるような課題提示や発問の工夫を行う。
- *多様な考えを引き出す問題 *やや困難さを感じさせる問題
*興味・関心を高める問題

②自力解決に導くための工夫

- ・課題提示後、自分で考え自力で解決していく時間を十分にとるように心がける。また、考えを分かりやすくまとめさせるために、目で見えて分かる絵や図を用いたり、思考の流れを文や式に表したりするなど、表現方法を工夫させる。
- *イメージ図 *絵 *具体物 *数直線図 *自分の言葉で表現

③児童の考えを生かした学び合いの工夫

- ・自分なりの表現方法で考えを発表させる機会を多くもたせ、友達との考え方の違いに気づかせたり、より良い解決方法を吟味させたりする。

(3) 評価の工夫

①一人一人の考えや学習状況を見取るための工夫

- ・指導と評価の一体化を図るために、机間指導を大切にする。課題提示後の児童一人一人の考えや気づきを見取る場と時間の確保を心がける。

②学びの振り返り

- ・授業の後、ノートに感想や学習のまとめを自分の言葉で書かせることで、意欲をもって授業に取り組んだか、内容を理解したかを振り返らせる。また、学び直しの時間を行う前には、既習事項の理解度を自己評価させ、どの学習を学び直すかを選択させる。

③学習チェックカードの活用

- ・新しい単元に入る前と学習後に、自己の学習状況をチェックさせることにより、どのくらい内容を理解しているかを振り返らせる。